

令和7年度 C日程 小論文 解答例及び採点基準

設問1

(出題趣旨) 問題文を分析し正確な読解や分析を行う能力、正確で分かりやすい文章表現力の程度を測定するものである。

【解答例】

(1) 15点

昔の日本では、子どもは7歳までは異界とつながる「聖なる存在」であり、「この世ならざるもの」であった。

だから、「この世ならざるもの」とこの世を架橋するものには童名をつけるという習慣があり、鬼とされる存在に「酒吞童子」など子どもを示す「童子」という名前を付け、牛を御する異能の持ち主である牛飼いは童名を名乗り、海などの野生と文明の間に立つ船には「なんとか丸」という童名をつけ、自然の力と人間の力の間を架橋する刀にも「なんとか丸」という童名をつける。

* 具体例は全部挙げる必要はないが、4つ例が挙げられているのであるから、少なくとも2つは挙げるべきだろう。

読解力と文章力を測るという点で、具体例については、問題文の文章を引用するのではなく、「この世ならざるもの」とこの世を架橋するものというカテゴリで簡潔にまとめて説明できることが望ましい。

(2) 15点

筆者は、学校とは子どもを査定して、評価して、格付けする場所ではなく、子どもたちの成熟を支援する場であるべきであると考える。

学校は、子どもを最初から「こちらの世界」のフルメンバーとしてとして遇する場ではなく、子どもたちを「あちらの世界」から「こちらの世界」へそっと移動させるきわめてデリケートな作業を求める場であるべきである。すなわち、半ば野生の存在である子どもたちを文明化していくという場であり、学校に通うことそれ自体で激しい痛みを経験することもしばしばあるのであるから、学校教育が子どもたちにとって外傷的経験になるリスクを感じて子どもたちを傷つけないことを優先的に配慮すべきである。

* 上記第1段落を述べれば、筆者の考え方を述べたことになるが、設問文で(1)で述べたことを踏まえて書くことが要求されているので、さらに第2段落の記述が必要。

設問2 30点

(出題趣旨) 論理的思考が出来ているかを確認するとともに、文章表現の正確性・論理性・

説得性・簡明性等を測定するものである。

【解答例】

筆者の考え方に照らすと、学校は、子どもたちを「聖なるもの」から切り離して「この世」に誘導するための場であるから、時間意識の拡大を促す音楽やこの世ならざるエネルギーを調べられた心身を通過させて発動する武道を学ばせることが重要となる。また、子どもたちを傷つけないことを優先的に配慮すべきであるから、テストを行ったり科目ごとの成績評価を行ったりすべきではないということになる。また、合格、不合格という査定を行い、子どもたちを傷つけかねない受験などもってのほかということとなる。

自己の見解

* 上記の筆者の考え方に対する自分の意見を具体的に述べること。

基本とする評価段階		設問 1 (1), (2) 各 15 点配点	設問 2 30 点配点
S	(きわめて優れている)	14 点以上	27 点以上
A	(優れている)	12 点	25 点
B+	(平均的レベルをやや上回る)	10 点	20 点
B	(平均的レベルである)	<u>8 点</u>	<u>15 点</u>
B -	(平均的レベルをやや下回る)	6 点	12～13 点
C	(やや劣る)	4 点	7～8 点
D	(劣る)	2 点	4～5 点
F	(入学を認めることに問題がある)	0 点	0 点